

町内小学生 15 名が集結 稲尾岳みどりの少年団 設立！

10月11日、錦江町みどりの少年団（仮称）設立検討会が開催され、名称を「稲尾岳みどりの少年団」と決定しました。団員は町内小学生15名。団長を田代小5年の稲村一夏さんが務めます。団員たちは11月8日にサンドームおおねじめで開催される『おおすみ植樹祭』に参加し、受付のサポートや記念植樹等を行う予定です。



緑の少年団は県内に67団（休団24）あり、1,363名が在籍。大隅地区には「稲尾岳みどりの少年団」を含め5団が活動しています。

商品の袋詰めやラベル貼付、陳列などを手伝ったメンバーさんたち。これまでの感謝を込めて、酒匂さんへ花束の贈呈も行われました。



新鮮倶楽部おおやまで「ハタラク」 ゆうゆうカフェ 最後のお仕事

「ゆうゆうカフェ」では毎月、メンバーさんが協力事業所に出向き、作業の手伝いを行っています。協力事業所の一つである新鮮倶楽部おおやまが閉店することに伴い、メンバーさんたちはおおやまで最後の手伝いを行いました。おおやまの総務部長酒匂和之さんは「楽しそうに働く姿が印象的だった。今後も何らかの形で関わっていけたら」と語りました。

夫婦で三献の儀で杯を交わし、これまで以上に固い絆を結びました。結婚当時を振り返る新聞記事や記念品が贈られました。



結婚50年の節目を祝う合同金婚式が10月21日に錦江町総合交流センターで行われ、7組14名が参加しました。山陽新幹線の全線開業や、アメリカの宇宙船アポロ18号とソ連の宇宙船ソユーズ19号が宇宙空間でドッキング成功などがあった1975年代。参加者を代表して林田正人さん夫婦が「この日を夫婦二人で迎えられて嬉しい。今日から新たなスタートラインに立ち、残りの人生をゆっくりと歩んでいきたい」と述べました。

合同金婚式に7組の夫婦が参加 夫婦で苦楽を乗り越え50年



大根占小5年生 バインダー&掛け干し 稲刈り みんなで力を合わせて

大根占小5年生の児童19名が、稲刈り体験を行いました。この稲は児童たちが6月に植えたもので、テリーファームの協力をもらいながら栽培してきました。バインダーでの稲刈りと、掛け干しを体験した児童たち。5年濱田陽葵さんは「稲を干す作業はやったことがあるから、すいすいできた」と笑顔を見せました。



児童たちは束ねた稲を慣れた手つきで次々に掛けていました。収穫したお米を使って、11月に餅つき大会を行う予定だそうです。

3年生の原澤芽生さんは「授業では友達と考えを共有できた。タブレットがあると、調べたいときにさっと検索できて便利」と話しました。



「個別最適な学び」の実現に向けて 田代中学校で研究公開を開催

10月21日、田代中学校で研究公開が行われ、町内外から約40名の先生方や学校関係者等が参加しました。「『個別最適な学び』の実現に向けて～生徒の主体的な学習を促すICT機器などの効果的な活用～」を研究主題とし、3年生の数学の授業を公開。生徒たちはタブレット端末を活用しながら、学びを深めていました。

笑顔と優しさいっぱいの子どもたち 認知症当事者と交流

錦江町認知症カフェ「ゆうゆうカフェ」のメンバーさん7名が大根占小学校を訪れ、4年生児童24名と交流を行いました。児童たちは、9月に高齢者や認知症についての事前学習を行っており、笑顔でメンバーの方々と話す場面が見られました。積み木づくりや雑巾縫い、折り紙遊びの3グループに分かれて交流を深めました。



積み木の削り方をメンバーさんに尋ねながら作業する子どもたち。田代小学校でも4年生を対象に交流を実施しました。

未来づくり専門員の友井川愛さんは「これまでお世話になった町民の方にもたくさん来ていただけて嬉しかった」と話しました。



これまでの感謝の気持ちを込めて 第2回ありがとう祭り 大盛況

今年度3月で退任を迎える未来づくり専門員の友井川愛さんが企画運営した「第2回ありがとう祭り」が10月18日に錦江町交流センターで開催されました。飲食ブースの他、ヨガ体験やマッサージ、国際交流員とのふれあいなど体験型ブースが盛りだくさんだった本イベント。未就学児から高齢者まで幅広い世代の来場者で賑わいました。